

みちからまちを変える取組み 「ふくみちプロジェクト」について

福井市 都市戦略部 都市整備課

1 はじめに

福井市は、福井県の嶺北に位置し、九頭竜川、足羽川、日野川の三大河川により形成された豊かな福井平野に発展してきた人口約26万人を有する中核市です。

明治22年に市制が施行されて以来、織物業の発展とともに、福井県における政治、経済、文化の中心都市として発展を続けてきました。

この間、昭和20年の戦災、昭和23年の震災など、幾度となく壊滅的な打撃を受けましたが、これらの災禍を乗り越え、市民の不屈の精神によって、今日の『不死鳥のまち福井』を築き上げてきました。

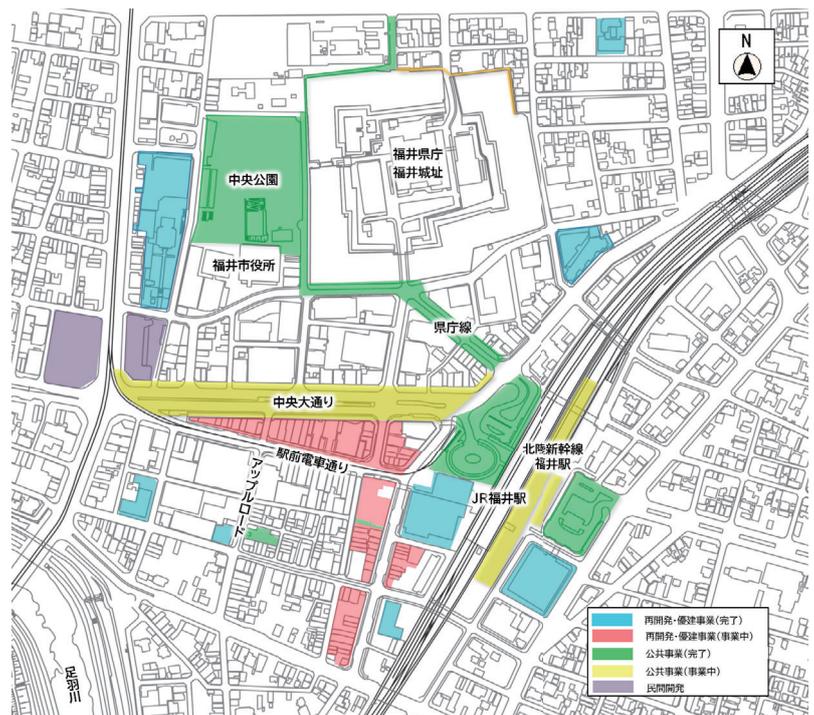


福井県・福井市の位置

2 福井駅周辺の整備状況

これまでJR福井駅周辺においては、県都福井の玄関口にふさわしい活力と魅力ある都市拠点の形成を図るため、福井駅連続立体交差事業による鉄道の高架化にあわせ、福井駅周辺市街地の再整備を行い、東西市街地の一体的な高度利用や、都市機能の高度化を推進してきました。

また、令和6年春の北陸新幹線福井開業を控え、新幹線駅舎の建設や、駅舎に隣接し本市が整備する福井市観光交流センターの建設を進めるなど、都市基盤の整備が進んでいます。こうした都市基盤の整備にあわせ、民間主体による再開発事業により、大規模なホテルや分譲マンションの供給が予定されるなど、福井駅周辺が大きく様変わりしようとしています。



福井駅周辺における整備状況

3 ふくみちプロジェクトに至る背景

(1) 県都にぎわい創生協議会

前述のとおり、北陸新幹線福井開業を見据え、福井駅周辺では様々な整備が進められています。こうした中、県都の玄関口である福井駅周辺に持続的にぎわいを創出することを目的として、福井県、福井市、福井商工会議所、経済界などが一体となって県都のまちづくりを協議する「県都にぎわい創生協議会」が令和2年7月に発足しました。当協議会では、令和6年春の北陸新幹線福井開業に向けて取り組むべき事項の検討を行うことや、2040年を目標とする長期構想（県都グランドデザイン）の策定を目指し、議論を進めています。このグランドデザインの策定に先立ち、公共空間の利活用を一つのプロジェクトに掲げ、歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）制度の導入に向けた検討を進めていくことになりました。

(2) 福井駅周辺地区交通戦略

本市では、福井駅周辺を対象に「歩く」という視点に主眼を置き、民間のまちづくり活動と連携した魅力的な都市空間、快適に回遊できる都市空間の形成に向けた施策を戦略的に推進する「福井駅周辺地区交通戦略」を令和3年12月に策定しました。この戦略の特徴は、福井駅周辺の道路を、「歩行者」、「自転車」、「自動車」などの移動手段について、「人が円滑に通行する機能」と、休憩や飲食、パフォーマンスなどの活動を可能にする「人が滞留する機能」とに区分けし、路線ごとに移動手段の違いによる機能を評価、整理したところにあります。この戦略では3つの基本方針「①まちなかを歩きたくなる道路空間の創出」、「②道路空間を活用した、魅力あるまちなかにする取組みの実施」、「③多様な交通モードでまちなかへ快適にアクセスできる交通環境づくり」を定め、各種施策に取り組むこととしました。

(3) 公共空間の活用

「福井駅周辺地区交通戦略」の基本方針の一つである「②道路空間を活用した、魅力あるまちなかにする取組みの実施」においては、これまでまちづくり福井株式会社が、公共空間を利活用する先駆的な取組み実績があります。平成25年4月に同社を都市再生推進法人に指定し、「道路占用許可の活用の特例」を活用し、道路空間におけるオープンカフェの取組みを進めたほか、平成30年には、都市利便協定（都市再生特別措置法第74条）を締結し、商店街の道路を一体的に管理・活用できるようになりました。このことにより、アップルロードや駅前電車通りを通行止めにしたイベントを定期的で開催されるようになり、プランターの設置や美化活動を行うなど、総合的なまちづくりを展開できるようになりました。

また、最近では、中央公園において野外ライブイベント「ONE PARK FESTIVAL」の開催や、足羽川河川敷において「ふくいまちキャン」と題したキャンプやBBQなどのイベントを開催しており、公共空間の活用がまちづくりの一部として浸透しています。



ONE PARK FESTIVALの様子

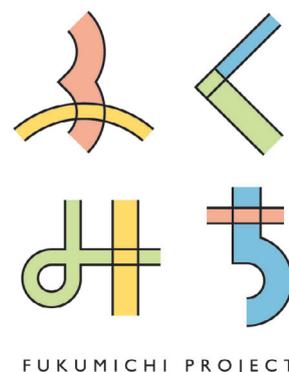
4 ふくみちプロジェクトの取組み（令和3年度）

(1) 背景

本市では、令和6年春の北陸新幹線福井開業を控え、福井駅周辺において大規模な再開発を進めており、こうした整備によって、自動車中心から歩行者中心のエリアへの変容を見込んでいます。歩行者空間を活用することにより、福井駅周辺に訪れる方や回遊する方が増え、更なるにぎわいの創出を期待できないか、検討することとしました。

そこで、令和3年度において、国の「先導的官民連携支援事業」の採択を受け、ほこみち制度の導入を見据え、歩行者空間に商業・飲食業機能や、憩い・滞留する空間の創出について、民間活力の可能性を調査しました。

「みち」から「まち」を変えていく新たな取組みとして、福井駅周辺における歩行者利便増進道路事業、略して「ふくみち」と名付けたプロジェクトの始まりです。



ふくみちロゴマーク

(2) 概要

令和3年度の調査では、主に次の事業に取り組みました。「ほこみち」制度の適用検討路線¹における、居心地が良くにぎわいや歩行者の回遊を創出する道路空間の利活用の検討、市民の利用や事業者の参画可能性を探るための社会実験の実施、「ふくみち」に対する市民の理解や期待、事業者の参画意欲や参画条件を探るためのアンケート調査、ワークショップをはじめとした各種意向調査の実施、道路空間の活用する担い手の発掘などです。ここでは、令和3年度に実施したワークショップ及び社会実験を中心に記載します。

(3) ワークショップの開催

今回、社会実験を行った路線は、現在進められている市街地再開発事業の工場の影響が少ない中央大通り（県道）の北側と県庁線（市道）の2路線です。実際に社会実験を行うといっても、このエリアに働いている方や福井駅周辺に訪れる方が何を求めるのか、道路空間をどうしたら事業者に上手く活用してもらえるか、見当が付かなかったことから、まずはニーズを把握するため、アンケート調査とワークショップを行うことから始めました。

アンケート調査では、「駅周辺利用者」、「通勤者」、「事業者」向けの計3種、それぞれのターゲットに応じた課題認識を踏まえた設問を設定し、回答してもらいました。「駅周辺利用者」には福井駅周辺に訪れる利用頻度を、「通勤者」にはランチ環境に対する満足度を、「事業者」には駅周辺への出店意欲に対する質問などを中心に答えてもらいました。福井駅周辺の利用に関しては、飲食・買い物で訪れることが多く、年1～2回の利用が全体の4割を超えており、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、平日、休日ともに夕方は自宅で過ごす方の割合が8割（平日）、6割（休日）と半数を超えていました。また、通勤者に関しては、ランチ形態はお弁当を会社で食べるとの回答が最多で、満足度については、約6割の方が自分のランチに満足しているという結果でした。「事業者」に関しては、福井駅周辺に出

¹ 「ほこみち」制度の適用検討路線：県道：主要地方道福井停車場線（通称：中央大通り）
市道：中央1-330号線（通称：駅前電車通り）、県庁線

店するとなれば、天候を気にする声や設備的な面（電源）を気にする声がありました。

ワークショップは、沿道事業者や、再開発事業関係者、地元経済団体の方を対象に、社会実験前に2回実施しました。1回目では、「ほこみち」制度の概要説明のほか、道路空間を活用した事例紹介、「ふくみち」プロジェクトの概要を説明したのち、グループごとに道路空間の活用方法や楽しみ方について意見交換を行いました。様々な立場の方で編成されたグループであったため、発想がとても豊かで、「ソロキャンプ」、「落書きアート」、「足湯」などのアイデアが挙がりました。

2回目は、グループごとにテーマを設置し、1回目に出た意見をより具体的にカタチにするワークを中心に行いました。例えば、「空間」をテーマに選んだグループからは、様々な人たちが自分たちの自由な時間に道で安らぐことを目的に、“禅”や“写経”ができるプライベート空間を「緑」を用いて創出し、リラックス効果のある水が流れる音や癒し効果のある香りの演出をしてみてもどうかとの提案がありました。こうした提案の中で、「音楽の生演奏」や「ハンモックの設置」など、実際の社会実験に取り入れられた提案もありました。また、ワークショップ終了後に、個別相談会を実施し、道路空間の活用と個別企業とのマッチングの可能性を探りました。その結果、NTT 西日本からは人流調査解析の協力を、旭化成株式会社からはクッションなどを提供していただきました。このほか、フクビ化学工業株式会社からは、屋外家具（テーブル、ベンチ、プランターなど）をくつろぎの空間に提供してもらえることになりました。



ワークショップの様子

(4) 社会実験 (R3.10.2～17)

アンケート調査やワークショップでの意見を踏まえ、令和3年10月2日（土）から17日（日）の16日間にわたり、中央大通りと県庁線の一部区間において、キッチンカーやカフェ、くつろぎの場所など、市民の憩いや賑わいを創出する空間を設置し、歩行者中心の道路へと転換する可能性を探る社会実験を行いました。

くつろぎの空間としては、中央大通り沿線のビルの軒下を利用したりサイクル本による図書コーナーを設置したほか、県庁線には緑の植栽に囲まれたスペースにハンモックや木製遊具を置くなどして、それぞれの人たちが自由にリラックスできる空間を創出しました。また、キッチンカーの出店やイス、テーブルなどを設けることにより、これまで通勤や通学で通過するだけだった道に滞留する空間が生まれ、ランチ、カフェ、バルタイムそれぞれで賑わいが生まれました。



キッチンカーによるランチタイム（中央大通り）



立ち飲みで賑わうバルタイム（県庁線）

平日には通勤者を中心に、お昼を楽しむ人たちであふれ、バルタイムには夜風を感じながら同僚と一緒に過ごす姿が、また、休日にはご家族やペットを連れの方が、木製遊具やハンモックでくつろいだり、ベンチで休憩する方の姿が見られました。

また、平日の県庁線ではモーニングカフェとして、コーヒーやおにぎりを販売するキッチンカーが出店し、淹れたてのコーヒーで出勤するという新しい日常の姿が見られました。

今回の社会実験は、単なるイベントではなく、道路の活用方法を探り新しい日常への予行練習と位置づけ、次への展開を探るため、アンケート調査と事後ワークショップを実施しました。



木製遊具で遊ぶ親子（県庁線）

(5) アンケート調査・事後ワークショップ

社会実験終了後にも、通勤者と事業者それぞれにアンケート調査を実施しました。通勤者からは、居心地が良い空間で気軽に立ち寄ることができる空間の新鮮さや、オフィスエリアという立地からランチのバリエーションが増えたなどのプラス評価があった一方、オフィスエリア特有のマイナス評価として、お昼の休憩時間である12時から13時に集中してしまうことによる待ち時間の長さの解消や、手頃な価格帯を望む声がありました。また、居心地が良い空間として、木陰を望む声が多くありました。

出店された事業者からは、次も出店したいという声が多く寄せられたほか、お店や商品のPRとなり、県内外からの評判が良かったことや、新しい人たちとつながりを持つことができたなど、非常に前向きな意見が多くみられました。次も出店したいという事業者が100%で、そのほとんどが出店料を払っても出店したいという意向が示されました。

また、第1回及び第2回のワークショップ参加者を主体として、社会実験のふり返りと持続可能なふくみちプロジェクトに向けた事後ワークショップを開催しました。このワークショップにおいても、平日のランチニーズが高く、キッチンカーの出店によるインパクトを評価する声があったほか、子どもたちが遊べる空間や居場所となる居心地のよい空間があったことに対する評価が高いことが分かりました。その一方で、平日のランチタイム時におけるキッチンカーのオペレーションの改善や天気が良くない時期に向けての対応などの課題が浮かび上がりました。

持続可能な事業にするためには、まちづくりを担うプレーヤーの育成や輩出が不可欠となりますが、単発のイベントやワークショップでは限界があり、例えば、社会実験を繰り返したり、市民大学のようなまちづくりに関する学びの場を提供することが必要ではないかと感じたところです。

(6) 冬のふくみち（R4.2.21～25）

秋の社会実験で見えてきた課題の一つである「天候が悪い時期への対応」について、季節的に一番厳しい時期と言える冬のシーズン、令和4年2月21日（月）から25日（金）の5日間にかけて、冬のふくみちを実施しました。今回は雪の降り積もる季節であることから、屋外ファニチャーや植栽などの設置は行わず、冬のランチニーズを探ることに焦点を絞り、昼の時間帯に中央大通りの一部区間で、キッチンカーの出店を行いました。

これまで意見が多かった待ち時間への対応策の一つとして、予約可能なキッチンカーについては、事

前にチラシやInstagramで告知しました。また、実際に待ち時間がなかったかなどを調査するため、これまで関わってくれた事業者の皆さんに調査協力を呼びかけました。

期間中は、時折雪が舞うあいにくの空模様だったにも関わらず、近隣のオフィスワーカーたちを中心に、ランチを求めてふくみちに会場される姿でにぎわいをみせていました。利用者からは、「冬のランチのバリエーションが増えるし、SNSで店舗情報も発信していて利用しやすい。」「昨年10月にも来て、今回も楽しみにしていた。郊外の味が楽しめるのは良い機会」などの声が聞かれ、ランチニーズを探るという所期の目的を果たすことができました。

しかしながら、課題も残りました。待ち時間の調査から12時から12時30分までのピークの時間帯にキッチンカーに列をなす姿がみられ、引き続き、出店者のオペレーションや待ち時間に対する工夫など、改善していく必要があることが分かりました。また、予約システムの構築やふくみちの周知の方法など、引き続き改善していくことがあることも、ふくみちに関わってくれている事業者の皆さんで構成する「全体会」と称した会議で共有することができました。



雪が積もる寒い中でもランチニーズを確認（中央大通り）

5 ふくみちプロジェクトの取組み（令和4年度）

(1) 中央大通りの改修とふくみち実行委員会の設立

これまでふくみちプロジェクトを実施していた中央大通りが令和6年春の北陸新幹線福井開業に向けて、令和4年7月頃から改修工事に入りました。そこで、改修後のほこみち制度運用に向けて、「ふくみち実行委員会」を設立しました。このふくみち実行委員会は、お店を出すプレイヤー、利用する沿道の事業所、御協力いただける民間企業など様々な立場から参画されており、憩い、くつろげる快適な道路空間を創出するとともに、道路空間の継続的な利用を通じたにぎわいを中心市街地全体に波及させることを目的に協議を進めています。

(2) ふくみち June2022 (R4.6.1～17)

今回のふくみちは、実行委員会が「ふくみち June2022」と題して、中央大通りの一部区間で令和4年6月1日（水）から17日（金）の17日間実施しました。

これまで通りランチタイムやバルタイムにキッチンカーやオープンカフェで食事やドリンクを提供するだけでなく、沿道ビル地下の飲食店を巻き込んだスタンプラリーを実施することで、道路空間だけでなく、周辺施設と連携した賑わいづくりにも取り組みました。また、これまでの課題であった「日差し」

への対応として、タープを設置して日影空間を創出するとともに、芝生や空間に合った屋外ファニチャーを配置することで、くつろげる居心地が良い空間を創出しました。

平日はオフィスワーカー、休日は家族連れなど、時間帯によって主な利用者が変わるため、休日には苔玉づくりや多肉植物の寄せ植え等のアクティビティを実施したり、芝生空間に木製遊具を設置するなどにより、家族連れの方にも楽しんでもらえるように工夫を凝らしました。



タープによる日陰、芝生上の木製遊具で遊ぶ親子（中央大通り）

(3) 試行事業後のアンケート調査と見えてきた課題

試行事業実施後に、利用者と事業者それぞれにアンケート調査を実施しました。利用者からは、「出来立てで美味しい」、「楽しい雰囲気が味わえた」などのプラスな意見があった一方、「金額が高い」、「提供までに時間がかかる」といったマイナスの意見もありました。また、事業者からは「雨の影響を受けた」「飽きられた感がある」「幅広い告知が必要」といった意見がありました。売り上げは晴天時と雨天時で波があったものの、人流カメラで定点観測した結果からは、人流は雨天時でも晴天時とほとんど変わらないということが分かりました。この結果から、天候に関わらず人は歩いているものの、待ち時間等がネックになって購入まで至っていないということが分かりました。

雨天時にも利用者を飽きさせず、かつ事業者にも継続して出店していただけるようにするためにも、アンケート結果から需要が高かった「待たない仕組み」、「手頃な価格・豊富な日替わりメニュー」「幅広い周知」について引き続き協議・検討していく必要があると感じました。また、将来的にはほこみち制度を利用して「みち」を日常使いしていくにあたって、「運用方法」や「維持管理方法」についても考えていくべき課題として、ふくみち実行委員会内で共有することができました。

6 おわりに

令和6年春の北陸新幹線福井開業という大きな転換期を控え、福井駅周辺が大きく様変わりするとともに、今後交流人口の増加が期待されます。

ふくみち実行委員会としては、これまで実施した社会実験や試行事業から見えてきた課題を解決するとともに、ふくみちが来街者にとって「一番初めに訪れる観光地」になれるように、また、市民にとって誇り思えるような空間を目指して、協議や試行錯誤を続けています。

まちなかに人を惹きつける場があると、人々は多様な目的を持って集い、活動・交流し、そこから、新たな文化や楽しみが生まれ、それがまち全体に広がり、また新たに人を惹きつける場が生まれます。こうした持続的なにぎわいによって、これからまちもひとともに大きくなっていく福井。お越しいただき、体感してみたいかがでしょうか。